



臨時休校に関するアンケート調査のご報告

——目次——

1. アンケートについて
 - 対象者について
 - 趣旨・目的
 - 設問一覧
2. アンケート結果概要
 - 結果概要
 - 子育て家庭の不安、記述の多かった言葉
 - 子育て家庭の孤立、子供の預け先について
 - 経済的な影響
 - 子育て家庭の負荷
 - 子どもへの影響（精神面、体力面、学力面、防犯・事故）
3. アンケートから読み取れる必要な支援
 - 今を乗り切る、今すぐ利用できる支援
 - 子ども支援
 - 支援が必要な人と繋がる仕組み、地域資源の活用
 - 家族がコロナに罹患した場合の支援
 - 再度休校になった場合の支援
4. 統計結果の図表

1. アンケートについて

<<対象者について>>

アンケート手法：全国を対象としたインターネットでのオンラインアンケート

対象者：高校生までの子を持つ保護者

アンケート有効回答数：226件（期間:2020年2月29日~3月30日）

（内、ひとり親家庭:87件、共働き家庭:110件）

<<趣旨・目的>>

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、3月2日から全国すべての小・中・高校などについて、春休みに入るまで臨時休校を要請するとの発表がありました。

この発表を受け、私たち子ども支援・子育て支援の団体にも「子どもを預けられない仕事も休めない、どうすればよいのか！」と多くの保護者から相談や不安の声が届きました。また、子どもたちも1ヶ月に渡り外出が制限される状況は大きなストレスとなり様々な問題が起きることも予想されます。

そこで、まずは、親御さん達が今感じている不安を言える機会を作りたい。そして、どのような支援が求められているかをお聞きし、関係機関への提言や、私たち支援団体には何ができるか効果的な方法を見出したい。そう考え、本アンケートを企画いたしました。

<<アンケート設一覽>>

(1) アンケートご記入者について教えてください(父、母、祖父母、その他保護者) (2) お住いの地域(都道府県・市区町) (3) 保護者の方に質問です。今のお住いは地元ですか?他地域出身ですか? (4) お子さんについて(人数・年齢) (5) 保護者さんについて(ひとり親、共働き、両親どちらかが就業、専業主婦・主夫、その他) (6) 雇用形態について (7) 職場での有給利用や休業補償について (8) 在宅勤務・テレワークについて (9) 勤務日数は週何日ですか? (10) 月収について(差し支えなければお答えください) (11) 休校期間中、子どものお昼ごはんはどうしますか? (12) 子どもの預け先、協力者について (13) 休校期間中 子どもを預けられる目処が立たない日は週何日くらいありそうですか? (14) 心配ごと、困りごとはありますか? (15) お子さんの反応 (16) 支援や制度についての要望 (17) 手助けや声かけで嬉しかったこと、助けになった行政の支援策など (18) 備考、メッセージ

<<アンケート実施者>>

NPO法人 太陽の家(三重県桑名市)

<https://taiyounoie2015.com>

<<協力団体>>

＊アンケートの広報には下記全国の子育て支援団体様からご協力いただきました。

[協力団体(順不同・敬称略)] 三重こども食堂ネットワーク、エンパワメントみえ、NPO法人ネットワークくわっこ、NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西、まえむきIPPO、福井県敦賀市こども食堂青空、マドレボニータ東海TOMOS、シングルペアレント101、女性の社会生活活動部フルード、CAPみえ、シングルマザーとその子どもたちの会~freely~、シングルマザー交流会松山、まつやま子ども食堂、チャイルドファーストくわな、NPO法人えがおプロジェクト、ドットスタイル .style、しんぐるまざあず・ふぉーらむ 北海道、NPO法人こどもステーション、香川ぼしふしの会、就労移行支援事業所フェーズワン

2. アンケート結果概要

アンケートの結果から下記のことがわかった。

1) 多くの保護者が不安を感じている。経済的な不安、子どもの心配の声が多く上げられた。

- 7割以上の保護者が心配事や困りごとを回答（72.5% 226世帯中 164世帯）
- 支援制度や情報が多く提供され始めた臨時休校開始後でも不安は解消されず、むしろ大きくなっている
 - 臨時休校開始後3月4日以降でも86.8%の保護者が心配事や困りごとを回答

2) 弱い立場の人にさらに負荷がかかっている

- ひとり親家庭の頼る先の少なさ
 - ひとり親家庭の4割が「協力が全くいない」と回答（42.5% 87世帯中 37世帯）
 - 「休校期間中に子どもを預ける先は1週間のうち何日あるか？」の質問には、
 - 「預けられない日がある」家庭：42.5%（87世帯中 37世帯）
 - 週5日とも全て預け先がないと回答：28.7%（87世帯中 25世帯）
- 発達の課題がある等、手助けが必要な子を持つ家庭の不安が大きい

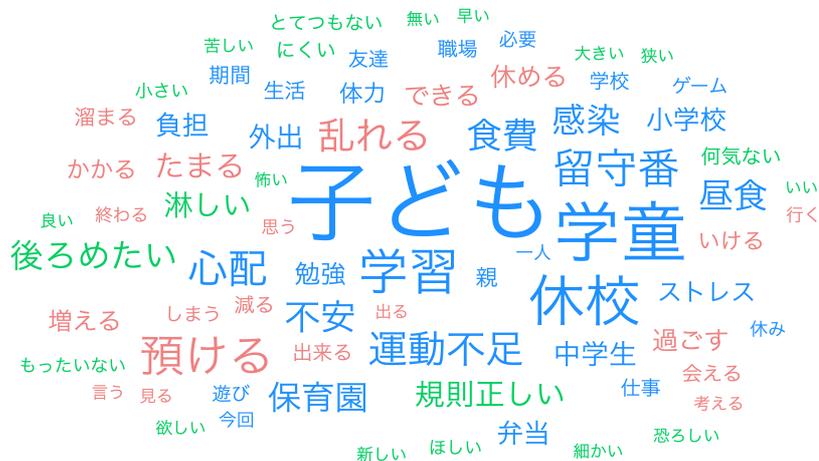
3) 支援制度の要望

- 収入の補償と休みが取れる環境
- 子どもの預かり先の確保（昼食付き）
- 子どもの遊び場や居場所の確保
- 子どもの学習のフォロー
- 正確な情報の伝達

<<アンケートに記述の多かった単語>>

アンケートに心配事や不安を記述した人の割合は7割に至った。

先が見えない不安、生活が立ち行かなくなる心配が多く書かれていた。（下図は出現数の多い単語ほど文字サイズを大きく表現）



<<子育て家庭の孤立・子どもの預け先について>>

頼れる協力者が全くいないが34.9%、週5日以上子どもを預けられない家庭が19.4%、72.5%が心配や困り事を回答し、子育て家庭の孤立や不安が鮮明となった。

また、元々困難が多い一人親家庭では、28.7%が週5日全て子どもの預け先がない」と回答し、厳しい状況に追い詰められていることが分かった。

◆頼れる協力者が全くいない、と回答

- 全体：（34.9% 226世帯中 79世帯）
- ひとり親家庭：（36.7% 87世帯中 32世帯）
- 共働き家庭：（32.7% 110世帯中 36世帯）

◆子どもの預け先がない日がある、と回答

- 全体：（38.4% 226世帯中 87世帯）
- ひとり親家庭：（42.5% 87世帯中 37世帯）
- 共働き家庭：（36.3% 110世帯中 40世帯）

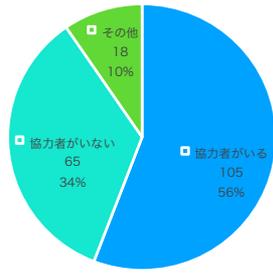
◆週5日とも全て預け先がない、と回答

- 全体：（19.4% 226世帯中 44世帯）
- ひとり親家庭：（28.7% 87世帯中 25世帯）
- 共働き家庭：（11.8% 110世帯中 13世帯）

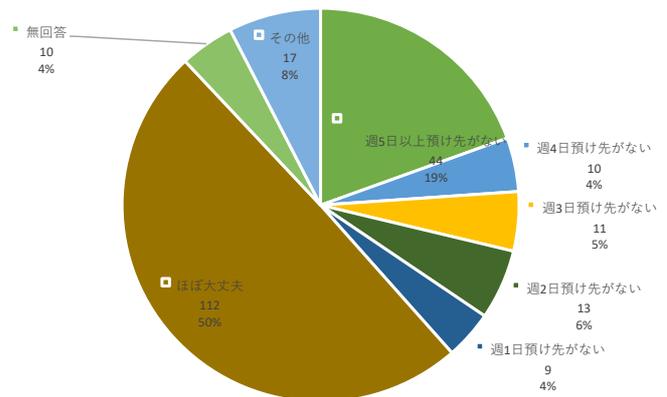
◆心配事や困りごとを回答

- 全体：（72.5% 226世帯中 164世帯）
- ひとり親家庭：（82.7% 87世帯中 72世帯）
- 共働き家庭：（74.5% 110世帯中 82世帯）

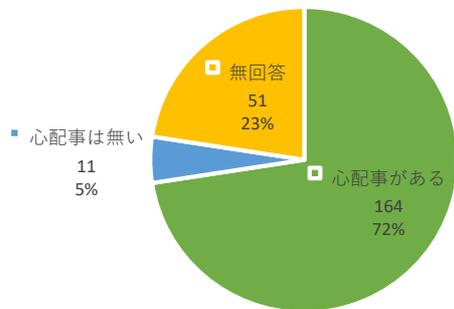
協力者について（祖父母、友人知人、親戚等）



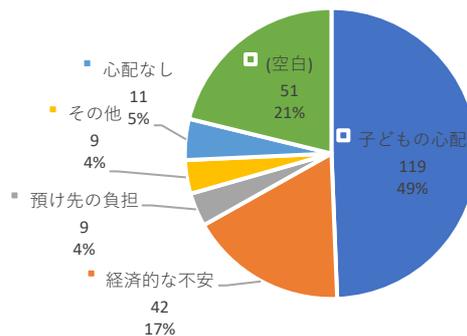
子どもが預けられない日は週何日ありますか？



心配事の有無



心配・困りごとの分類 ※複数記述可



*下記にそれぞれの項目についてアンケートから自由記述を一つずつ抜粋。

「」（カッコ書き）は抜粋したコメント

<<経済的な影響>>

出費の増加

- 預け先への費用
 - 「学童に預けるために、お弁当を作らないといけない！学童費用もかかる。」
 - 「学童と託児所の費用が高額になるが、小学校と幼稚園の費用は減額されない。介護職なので休めないから無理して行っています。」
- 昼食費の増加
 - 「仕事には行けるので給料は受け取れるが休校で給食がないので毎日の生活費がかさむ。」
- 自宅にいて光熱費の増加
 - 「一日中暖房をつけることになるので、今月の灯油代の請求が恐ろしい。昼食にかかる出費が膨大。ひとり親にとって、想定外の出費で今後の生活が、間違いなく苦しくなる。終わりの見えない、不安。」
 - 「休みが長いので食費、光熱費いつもよりかかる」

収入の減少

- 勤務時間の短縮
 - 「学童側からも出来たら自宅で見たいと言われていて。上司には一応時短の可能性大である事は伝えているが、仕事の現場も人員不足で申し訳ない気持ちがある。」
 - 「子連れ出勤できるが、時間は短縮勤務になり、その分収入が減る。子どもたちのストレスが心配。」
- 休業
 - 「子供達が休みで家にいるので仕事はほとんど出来ない。学校が休みで給食がないためにお昼を用意しなくては行けない、外出自粛のための光熱費等支出増」
 - 「仕事に入れる機会が減り、あてにしていた金額まで働けなくなりました。」
 - 「職場が保育園なので、仕事を休むことに理解はしてくれるが現場としては休みにくい。もともと収入が不安定で貧困状態なので、本当に休業補償がされるのか、先が見えなく不安。」
- 自宅勤務、自営の人
 - 「子どもがいることで仕事がしにくい」

<<子どもが預けられず留守番を選択する家庭の負荷>>

- 小さい子を置いて仕事に行く後ろめたさ
 - 「子どもを置いて仕事に出ていかなければならないので、心配、出来るなら職場に連れて行きたいけど感染予防の休校なので連れて行く訳にもいかず、結局、中学生に下の子を見るように頼み仕事へ行く。そう言う事を何日もする事が、私の中でつらい」
- さまざまな事情を抱えた家庭がある
 - 預け先がない、祖父母などの協力者がいない
 - ひとり親
 - 共働き

- 発達等で支援が必要な子ども

- 一人での留守番が難しい
- 預けたとしても不安がある
 - 「祖父が気分屋なので長時間家に居なくちゃいけない子ども達(発達障害あります)の何気ない言動などで突然怒り出して嫌な思いをするのではないかということ。」
 - 「知的に遅れがない発達障害があります。支援学校などの対象からは外れていますが、身の回りのことは小学生並みです。高校は通信に通い、NPO法人などの支援で過ごしていますが、今回のことでぜんぶとまりました。」
 - 「今度中学校にあがる支援の必要な子がいます。中学校に何度か見学に行って、スクールソーシャルワーカーの先生に頑張って繋いでいただいているのに、この長期間の休み。ハッキリ言って中学校に通えるのかすごく不安です。学校も、諸事情で留守番出来ない家庭は預かります。と連絡がきましたが、小学生は保護者の送迎があつてのこと。シングルマザーでフルタイムで働いている身としては路頭に迷うしかありません。学校は15時までとのこと。」

<<子どもが預けられた家庭、保護者が家にいる家庭の負荷>>

- 預け先の負担

- 体力的な負担、感染リスク
 - 「預ける祖母の体力が心配」
 - 「祖母が面倒をみてくれるが、体調が心配。」
- その他の負担
 - 「元々実家住まいの両親に迷惑をかけているが滞在時間が増え、金銭面での負担増が不安」

<<子どもへの悪影響>>

- 精神面

- 友達と会えない
- 卒業式、終業式
 - 「いきなりわからないまま通常登園が終わり。卒園式なので淋しい。ちゃんとお別れさせたかった。」
 - 「卒園式までの大事な時期に急に休園要請があり、心がついていけないこと。」
 - 「突然シャッターが降るされたように 休みに入ってしまう、卒業までの大切な日々が断たれ、子どもなりに心のやり場がないようです。」
- 一日家にいる
 - 「家に閉じ込められていることの状態が不安。」
 - 「こどもの居場所が自宅しかない」
- 平常時と異なる環境が精神面に影響
 - 「子どもが精神的に不安定になっている。」
 - 「4月から小学校に上がる為、それだけでも不安だと思いますが、その上相次いで行事が中止され、子供が不安がっているのではないかと心配」
- ストレス
 - 「子どもたちのストレスがたまる。出かけようにも感染予防で休校の手前、出かけにくいし」

・ 体力面

- 運動不足、一日家にいることによる体力の低下
 - 「子供の運動不足。体育と通学だけでも。」
 - 「外であそべないので、体力があまる」
- 生活サイクルの乱れ
 - 「外遊びの規制はやめてほしい。身体を動かさない事で夜が寝れなく昼夜逆転しつつある」
 - 「もう中学生なので、ひとりでも大丈夫ですが、生活習慣の乱れが心配です。」
- 平常時と異なる環境が体調に影響

・ 学力面

- 履修できていない授業
 - 「学習面。まだ終わってない範囲もあるみたい。」
 - 「教科によっては、まだ残っている単元はどうなるのか？成績はどうやってつけるのか？学習面が心配です」
- 受験勉強に支障が出る
- 学習塾などの学びの機会の喪失
 - 「中学への入学にともなう体験等ができず、不安があり、フォローが大変」
- 一人では勉強しない
 - 「中学生に上がる前の総復習ができなかったし、家にいても自分から学習するタイプではないので、とても不安。」
 - 「勉強が進級したとき、ついていけるのか子どもが心配している。」
 - 「ゲームや動画などの時間管理ができないこと。」
 - 「子供が中学生のため小さい子供に比べピッタリという必要はなくなってきたが、親がいないことをいいことに友達の家遊びに行かないか心配。宿題等もないため生活習慣が乱れないか心配。」
 - 「ゲームばかり歯止めがきかなくなる」

・ 防犯、事故

- 見守る人がおらず状態が分からない
- 留守番に慣れていない、小さい子どもは対応に限界がある
- 防犯
- 火事
- 事故
 - 「子どもだけで自由にやっているのでは事故がないか心配」

3. アンケートから読み取れる必要な支援

アンケートを分析した結果から必要とされる支援や、現在の支援状況に関する課題が見えた。その課題を踏まえて「子ども支援」及び「子育て家庭支援」についてご提案を申し上げます。

<<課題>>

- 支援が必要な人に情報が正しく伝わっていない（不安が解消されていない）
- 今を乗り切る、今すぐ使える支援が少ない
- 支援が利用しにくい、分かりにくい（サポートする人が不足している）
- 地域資源を最大限に活用できていない（NPO等との連携、学校等の施設の有効活用）
- 給付がいつになるか、自分が受けられるか分からず支援策が発表されても不安が解消されない

◆今を乗り切る、今すぐ利用できる支援

新型コロナによる影響で、収入は減り、昼食費や学童費や光熱費などの支出は増加している。元々3月4月は新入学等でお金のかかる時期であり、影響は大きい。今を乗り切るための、すぐに利用できる支援が必要。

- 必要家庭への食品配布（NPO等との連携）
- 緊急小口資金貸付の申請サポート
- 休業補償の申請サポート
- 給付金受給の申請サポート

◆子ども支援

- 放課後の学習支援の実施（学習の遅れや不安を解消）
- 全ての学校に相談員を設置し、学習状況や生活での困りごとの相談を受ける
- 3学期の未履修単位についてのフォローを行う
- DV、虐待の相談窓口の設置（ストレスや不安が強い状況の中で、自宅にこもり親やパートナーと過ごす時間が増えればリスクが増える）及び、啓発情報や相談先情報の発信
- 遊び場の確保

◆支援が必要な人と繋がる仕組み、地域資源の活用

知らない支援は存在しないのと同じ。必要な人が支援につながれるよう、その人に届くルートで情報を届け、支援を利用できるようサポートすることも必要不可欠。

- 支援策、相談窓口、NPO等の支援団体についてあらゆる媒体を使っての周知（県政及び各市町の広報誌、ウェブサイト、テレビ、CATV、ラジオ、新聞等）
- 学校や公共施設など、子どもが普段通う場所に相談場所や支援拠点を作る（例：学校内にいつでも相談できる校内カフェを設置、食品配布会を学校や市役所で開催、など）
- 学校、学童、保育園、病院、市町、社会福祉協議会、民生委員、自治会、NPOなど、支援が必要な子どもや家庭が見えている機関が連携して支援にあたるネットワークを構築する

-
- NPO等の支援団体への支援（活動に必要なマスクや配布食品等の物資、情報、場所、広報などの提供・協力）

◆家族がコロナに罹患した場合の支援

- ひとり親が新型コロナウイルスに罹患した場合や、濃厚接触や感染の疑いがある等で自宅療養や隔離を選択する場合の、子どもの保護と支援について明確にする（一時保護、ショートステイなどの保護メニューの用意、利用方法等の周知）

◆再度休校になった場合の支援

- 学校での弁当配布、給食実施（時間をずらし感染リスク抑える）
- ネット学習ができるように端末や通信機器の貸し出し
- 休校の間の学校開放を学年ごとなどに時間を区切って行い、子どもの外遊びの機会を確保する
- 一斉休校時の担任から生徒へのLINEや電話などによる声かけを行い、1日のリズムができるよう促す
- 生徒がいつでも相談に来れる校内での相談場所を設置する。軽食の配布も行う

4.統計結果の図表

